

最上総合支庁管内の取組状況等について

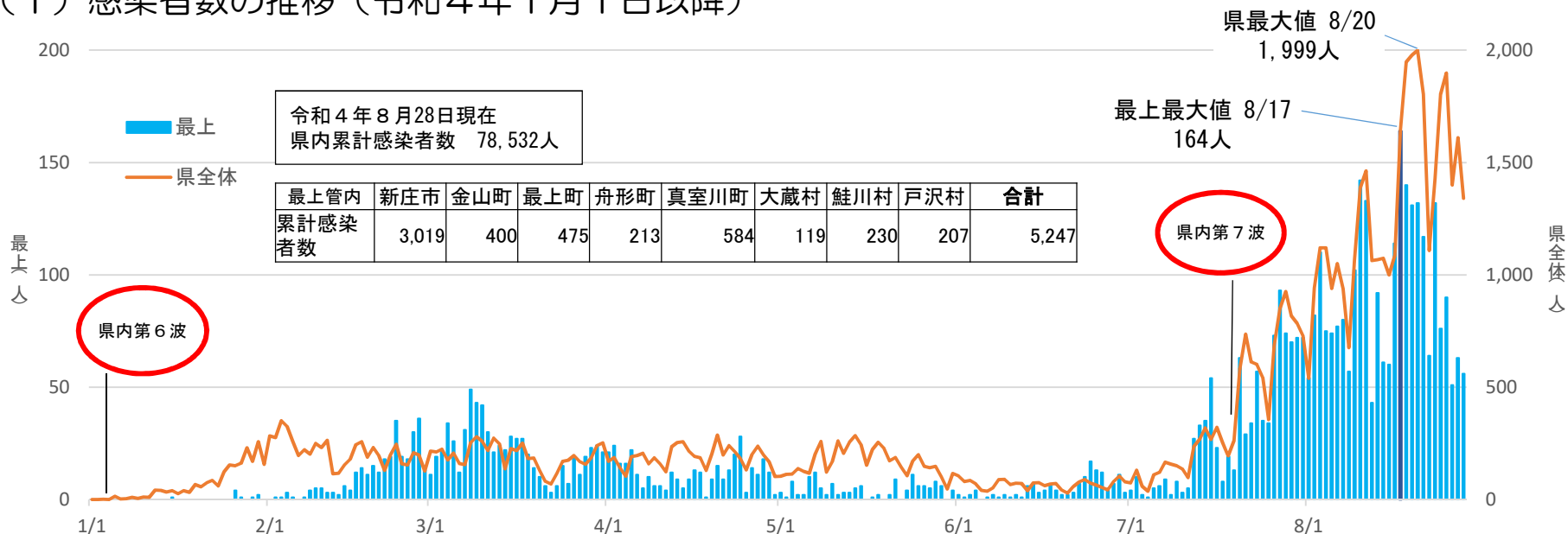


国重要無形民俗文化財 ユネスコ無形文化遺産 「新庄まつり」

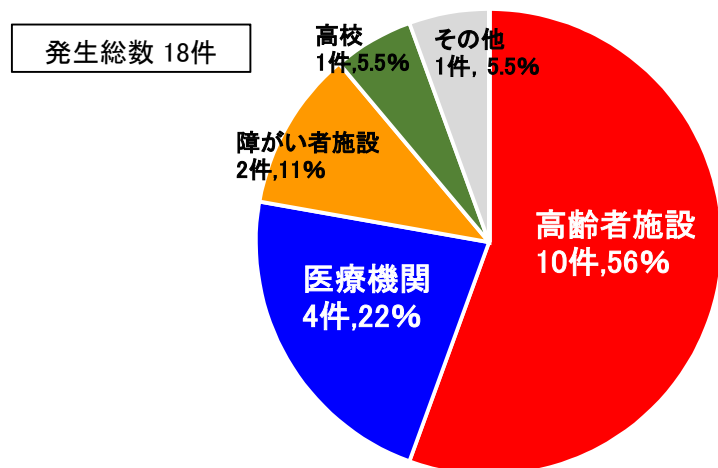
- 1 最上管内の新型コロナ等の状況
- 2 若者の地域定着・人材確保
- 3 最上传承野菜を活用した地産地消の推進
- 4 最上管内の観光振興
- 5 最上管内のトピックス

1 最上管内の新型コロナ等の状況

(1) 感染者数の推移（令和4年1月1日以降）



(2) クラスターの発生状況（第7波～）



(3) 保健所の機能強化

- コロナ専門の会計年度任用職員を5人採用
（事務員4、技術員1、自宅療養支援）
- 総合支庁各部から毎日3人、合計9人の応援
（患者調査、自宅療養支援）
- 本庁から平日5人の応援（患者調査、自宅療養支援）
- 管内市町村から延べ25人の保健師の応援（8/30現在）
- 外部委託一日最大3人（患者情報入力）

1 最上管内の新型コロナ等の状況

新型コロナ、原油・物価高騰等の影響

1 製造業

〔電子部品〕

E V自動車化の進展を背景に受注は堅調に推移しているものの、材料の金や銅等の地金価格の高騰が著しい。電気代高騰で収益を圧迫。

〔輸送関連〕

一般的に半導体や部品の調達難による減産となっているものの、一部には新規受注対応で新たな生産ラインを立ち上げる動きが見られる。

〔金属・建築〕

大型・新規案件の受注により生産は堅調、鋼材やメッキ等の価格が前年同期比で約5～6割の増。電気代高騰の影響も大きい。

〔繊維・衣料〕

中国のロックダウンや円安の進展等を受け、国内生産への切り替えが進み、引合いが多くなっており繁忙。

(参考) 最上地域の「2019年製造品出荷額等(910億円)」の構成

電子 30.3%	輸送 10.4%	金属 10.2%	繊維 7.9 %	木材 7.5 %	皮革 5.1 %	プラ 4.9 %	土石 4.4 %	その他 19.3%
-------------	-------------	-------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	--------------

※上位8位まで表示 資料:「2020年工業統計調査」

2 飲食業

〔昼の飲食店〕

例年、お盆期間中は家族(7～8名)の利用が見込めるが、コロナの感染拡大で、来店する件数の減少に加え、利用人数も縮小(3～4名)。

〔夜の飲食店〕

お盆期間中は、二十歳を祝う会の開催等で若者の利用は増えたが、コロナの感染拡大で他の利用がほとんどなく、売上は前年に比べ若干の減。

3 観光業

〔宿泊施設〕

帰省客を含め首都圏からの利用者が増えたものの、感染者数の増加で特に首都圏からのキャンセルが増え、8月としては例年の7～9割程度。

9月も、キャンセルの発生など感染拡大の影響がある見通し。

〔立寄り施設〕

8月上旬からお盆の期間にかけては、昨年以上の利用はあるものの、例年の水準には戻っていない。8月としては例年の5割程度の見込み。

4 農林業

〔農業〕

野菜(アスパラ、にら等)は、生産量、出荷量とも例年並み、外食等の業務需要は回復傾向、単価は前年並みで推移。

花きは、コロナ等の影響による輸入量の減、ブライダル等の業務需要の回復傾向等により、国内産の引合いが増えており、単価は高めで推移。

畜産は、牛枝肉は全体的にコロナ禍前の相場に近い水準で推移。豚肉や鶏肉の小売は堅調だが、ホテルでの会食等、団体利用の減が続いており、業務需要は依然として低調。

燃料費(機械・施設用)、輸送費、資材や飼料費等の上昇は続く見込みであり、経営への影響等が懸念。

〔林業〕

製材関係は、丸太の生産及び製材の稼働状況は例年並み、丸太の買取価格は例年に比べ3割程度高めで推移。森林所有者へ利益還元。

きのこ(特用林産物)は、業務用きのこの市場流入の流れは落ち着きつつあるが、単価は一般的に1割～2割安(前年と同程度)。

2 若者の地域定着・人材確保

最上地域では、企業、商工団体、教育機関、市町村、総合支庁等が連携し、「オールもがみ」の体制で、子どもたちが「最上地域で働くこと」に対するポジティブな職業観の醸成に向けて、子どもたちの成長段階に応じた各種事業に取り組んでいる。

主な取組み

【●】実施済・実施中、【○】実施予定

小・中学生向け

- 中学校における出張職業体験（6市町村で開催）
- 小中学校の教員向け企業見学会
授業等での活用を目的とした企業見学バスツアー（8/5、14名参加）



中学校 出張職業体験
(萩野学園(5/27))



小中学校教員向け企業見学会
(新庄エレメックス(8/5))

高校生向け

- 新庄・最上ジモト大学
地域企業や団体等が地域を知り学ぶプログラムを提供（全42プログラム）
- 地元で働き・暮らす先輩からの特別授業
仕事のやりがい等のイメージの醸成（全8回）
- 最上地区合同企業ガイダンス
地元企業に対する理解・地元就職の促進（12月予定）【新規】



地元で働く先輩からの特別授業
(新庄南高金山校(7/22))

大学生等向け

- 大学生等向け企業訪問バスツアー
理系学生に対する最上地域の製造業の知名度向上
鶴岡高専生向け（7/30、12名参加）、山形大工学部学生向け（9月予定）
- オンライン企業紹介・企業説明会
地域外に転出した若者層に向けた雇対協HP特設サイトの情報発信
- インターンシップ、就業体験等
オンラインを活用等による実施（9月以降予定）

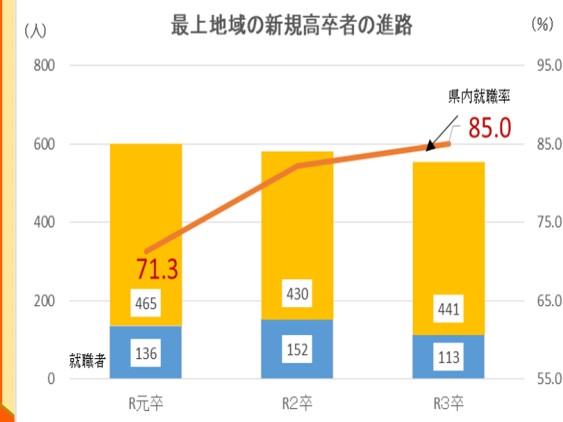
新入社員等若者向け

- ルーキーズカレッジ
職場の枠を越えた「地域の同期会」づくり（6/15、39名参加）



ルーキーズカレッジ(6/15)

成果と課題、対応



資料:山形労働局 新規学校卒業者の職業紹介状況

【成果】

新規高卒者の県内就職率の着実な改善
(R1) 71.3% ⇒ (R3) 85.0%

【課題】

大学等進学により地域外に出た若者等の
“**帰**” 促進が必要

【対応】

帰促進に向けた取組みの強化

- ・ 地域企業を知ってもらう職場体験等の充実・機会の創出
- ・ 保護者、教員等向けの情報提供強化等

2 若者の地域定着・人材確保

● 新庄・最上ジモト大学2022 ●

地域の大人と高校生が地域のことを本気で語り、学び、交流する場として、地元企業や自治体等がプログラムを提供する、「新庄・最上ジモト大学」の2022年度プログラムが7月16日からスタート。6年目となる今年度は、これまでで最も多い42プログラムを実施予定。



【これまでのプログラム実施例（今年度の途中経過）】

■ 「手で話そう」～手話通訳という資格を知ろう～（新庄市）



「手話通訳者」は、ろう者の生活、いのかにかかわる場面など、様々な場面で必要とされている。

新庄市ではR3.12に「新庄市手話言語条例」を制定。

条例の普及啓発のため、これからを担う高校生が、手話通訳の仕事体験。

〈参加した高校生の声〉

- ・基本的な手話を覚えて活用したい！
- ・ろう者の日常的な大変さが分かった。

(8/6実施 8名参加 全2回中1回目)



■ 今年の祭りは浴衣で出かけよう（株式会社宮城）

日本の文化である着物に実際に触れ、浴衣の着付けを体験。新庄まつりを浴衣で盛り上げるため、今年度新たに実施。



〈参加した高校生の声〉

- ・浴衣の歴史や柄の意味などを学べた。
- ・今まで知らなかった地域の魅力を知れた。
- ・新庄まつりに着ていきたい！

(7/23実施 3人参加 8/20実施 11人参加 全2回)



■ 第3回最上小国川鮎釣り甲子園大会

(最上小国川清流未来振興機構)

アユの友釣りを体験し、清流文化の素晴らしさを感じながら地域の活性化を考える。
(3年ぶりに開催)

〈参加した高校生の声〉

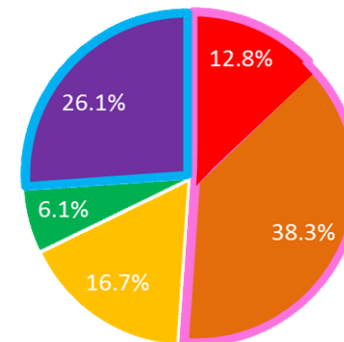
- ・鮎釣りを通じて最上の自然の豊かさに改めて気づけた。
- ・鮎釣りの難しさや地域の人との関わり方を学べた。

(7/30実施 25人参加)



【参加した高校生の感想（8/23現在）】

◎ 今年度新たに、「将来、地元とどう関わりたいか」をアンケート調査



- 半数が地元に残る又は一旦地元を出るが戻ると回答
- 1/4はまだわからないと回答
- このまま地元に残りたい
- 地元からいったん出るがいずれ地元に戻ってきたい
- 地元には残らないが何らかの形で地元に関わっていききたい
- 地元に残りたくない
- まだ分からない

3 最上传承野菜を活用した地産地消の推進

主な取組み

最上传承野菜を地域の貴重な資源として位置づけ、地産地消の推進や、豊かな食文化の継承に向けた取組み等を実施

(1) SDGsに対応した地産地消推進の取組み



① 寄付金つき地産地消定食【一部新規】

これまででも支庁食堂と連携し、地元の旬の食材の消費拡大や地産地消推進のため「地産地消定食」を提供。今年度は、「**食べて応援!! 地産地消でSDGs**」をテーマに、新たにSDGsの観点を盛り込み、地産地消へのさらなる関心・行動を喚起。

- ・ 内容：年5回（各回5日間）
地産地消ウィークに合わせ日替わり定食を提供
- ・ 仕組み：1食あたり650円
うち50円を県内でSDGsに貢献している団体に寄付

《開催内容》

◇第1弾(6月13日～6月17日)

内容：「海の豊かさを守ろう」
県産海産物等を提供（実績：419食）
寄付：「美しい山形・最上川フォーラム」に20,950円を寄付



◇第2弾(7月19日～7月25日)

内容：「住み続けられるまちづくりを」
最上传承野菜や大蔵村棚田米等を提供（実績：415食）
寄付：「最上地区民俗芸能団体懇話会」に20,750円を寄付



◇第3弾(9月16日～9月26日)【予定】

内容：「陸の豊かさを守ろう」
最上地域産のきのこ等を提供
※「やまがたSDGs推進月間」に
合わせ、関連展示を予定



第2弾時提供「やまがた棚田カレー」

◇第4弾(2月)、第5弾(3月) 実施予定

(2) 次世代への浸透に向けた取組み

① 管内高校生と連携した地産地消メニューづくり

《取組み1 地産地消メニューづくり・発信》【拡充】

管内高等学校4校で、最上传承野菜等の最上地域の農畜産物について学びながら、新たなレシピを開発し、動画などで発信。

また、支庁食堂で「地産地消定食」として提供。

今年度から、地元菓子店の協力を得て、メニューづくりにスイーツ等の選択肢も追加して、レシピ開発を進めている。



《取組み2 地産地消弁当の販売》

高校生考案レシピの組み合わせによる「地産地消弁当」を、高校生が一般販売。

- ・ 日 時：令和4年7月31日（日）
- ・ 場 所：ゆめりあ 花と緑の交流広場
- ・ 販売数：200個（@700円）



高校生による「地産地消弁当」販売の様子

② 管内小学校での栽培体験

管内小学校において、最上传承野菜の栽培体験等を通じた食育の推進により、地域の食文化等への理解促進及び郷土愛の醸成を図っている。

- ・ 新庄市立本合海小学校での「畑なす」等の栽培及び販売
- ・ 鮭川村立鮭川小学校での「米さずべ芋」の栽培



最上传承野菜「畑なす」



鮭川小学校での定植の様子

今後の取組み

オンラインの活用等による更なる地産地消の推進

- ①最上传承野菜を使用した親子オンライン料理教室の開催
- ②SNS（HP・Facebook・Instagram）による情報発信の強化



最上传承野菜

最上地域で昭和20年以前から栽培されてきた野菜・豆類で、現在も自家採種され栽培されているもの。現在33品目を認定。

4 最上管内の観光振興

主な取り組み

(1) 地域資源を活かした誘客企画

①もがみAMAZINGトレイル

アドベンチャーツーリズムの一環として、最上の豊かな自然の中でトレッキングを楽しみながらコーヒーを味わう企画を実施。

期間：5月1日～6月30日

参加者：8コース、184名

⇒好評により、令和5年度に向けて、通年での商品化を目指し、磨き上げを実施。



②新庄まつり(8月24日～26日)を核とした連携事業

ユネスコ無形文化遺産に登録された「新庄まつり」が3年ぶりに通常開催されることにあわせ、観光客を対象に、最上地域の特産品等の販売と観光PRを行うイベントを実施し、管内への周遊と再訪を促進。

大手旅行会社の新庄まつり見学ツアーにおいて、上記イベントが買い物場所として、ツアーのルートに組み入れ。

(2) 東北中央自動車道開通を契機とした観光誘客

令和4年内の東北中央自動車道の開通を契機に、最上地域への来訪を促すため、高速道路SAでの誘客キャラバンを実施。

仙台市、首都圏に加え福島県の旅行会社を訪問し、高速道路の年内開通をPRしながら、旅行商品造成を働きかけ、新たなバスツアーも造成された。

【誘客キャラバン】

- ・6月 安達太良SA（県事業に参加）
- ・10月 東北自動車道のSAで実施予定



(3) 県内や隣県との広域連携による周遊促進

①おくのほそ道333周年を契機とした観光誘客

【おくのほそ道スタンプラリー】

庄内地域と連携し、芭蕉ゆかりの地域を巡るスタンプラリーを実施中。

期間：7月30日～12月31日

参加施設：最上16施設、庄内16施設

【おくのほそ道333周年事業】

最上町において、マルシェや山刀伐峠コーヒーシャトルなどの特別企画を開催。

実施日：7月3日



②県内周遊促進事業(MOGAMIマルシェ)

山形県総合文化芸術館（やまぎん県民ホール）前のイベント広場において、最上地域の観光情報の発信、地域特産品の販売イベントを実施。置賜地域と2週連続イベントとして連携して実施。

期間：10月1日～2日

会場：やまぎん県民ホールイベント広場

③東北のへそ三県交流まつり

東北のへそ地域（宮城県大崎地域、秋田県雄勝地域、山形県最上地域）への秋の観光シーズンに向けた誘客促進のため、観光PRイベントを開催。

期間：9月3日～4日

会場：宮城県秋保ヴィレッジ



5 最上管内のトピックス

① 第6期 最上地域政策研究所のスタート

5月13日、最上地域の諸課題について調査研究し、政策推進に資するとともに、職員の政策形成能力の向上を図ることを目的とする、「最上地域政策研究所」の第6期の研究員10名への辞令交付式を実施した。

研究テーマは「デジタル化の進展を見据えた新たな施策の展開」で、最上地域の現状把握や、先行事例調査など、研究をスタートしている。

2年間の研究活動を通して効果的な施策を練り上げ、来年度、最上地域の各首長等に提案、具体化していく。



② 高速道路網の整備と新庄IC付近「道の駅」検討状況

東北中央自動車道は、東根北ICから村山本飯田IC間の年内開通が予定されている。このことにより、いよいよ最上地域が首都圏と高速道路でつながることとなる。

さらに、新庄市北部の「泉田道路」が今年度中の開通予定であるほか、令和7年度には、金山町までの「新庄金山道路」の開通が予定されている。

こうした開通のメリットを県内外にPRしながら、最上地域の活性化につながるよう、市町村等と連携し、一層の機運醸成を図りながら地域の声を発信していく。



新庄まつりに合わせた開通PR

新庄IC付近「道の駅」は、新庄市を中心に管内8市町村が主体となり検討が進められており、今年度は、作業部会での検討を踏まえ、9月と翌年3月に検討会の開催が予定されている。

<検討会委員>

最上管内8市町村長、最上管内商工3団体代表
山形河川国道事務所長、県土整備部長、最上総合支庁長

③ 専門職大学に係る地域連携の取組み

7月8日、県・管内市町村・農林業団体の関係者が会し、専門職大学を活用した地域振興策等について検討を行うプロジェクトチーム会合を開催した。

街中への学生の居住のための住宅環境整備や通学の足の確保はもとより、開学を目前に控え、地域に対する専門職大学のPRに取り組んでいくこととした。

早速、新庄市議会議員や最上地域農業法人研究会に対し、神山専門職大学整備推進監が専門職大学の魅力等について説明を行った。

大学開学を最上地域の新たな飛躍につなげられるよう、地域一丸となり取り組んでいく。



新庄市議会議員の研修会(7/22)

④ 戸沢村蔵岡地区における治水対策の進捗状況

平成30年8月豪雨により、2度にわたり浸水被害に見舞われた戸沢村蔵岡地区では、住宅エリアへの浸水被害を防止するため、県が管理する角間沢川の左右岸において、令和元年度から輪中堤の整備工事を進めている。

このうち、蔵岡集落を取り囲む左岸側の輪中堤は、令和4年7月までにほぼ完成している。右岸側についても、令和5年3月末の完成を目指し工事を進めている。

<輪中堤> 高さ：約2m
延長：左岸L=約1,000m、右岸L=約200m

